

令和5年度 かながわコミュニティカレッジ講座 修了生インタビュー

かながわコミュニティカレッジ受講生の中でも数多くの講座を受講されている石井さんにお話を伺いました。

職 業：藤沢総合健診センター 顧問
居 住 地：藤沢市
受講科目：「犯罪被害者支援ボランティア養成講座」「地域のつながりで始めるあなたのウェルビーイング」「子どもがいる家庭への訪問支援」「大人のひきこもりと発達障がいを考える講座」受講



そう話す石井さんの眼差しには強い意志を感じます。

「コミカレの受講生の多くは社会が抱える課題を解決するため既に行動を起こしている人、起こしたい人です。そのような方が多く集う場所だからこそ受講生同士の交流や情報交換もしやすい。そしてディスカッションや交流を通し、自身の持つフィルターに気づくことができるんです。」

石井さんは犯罪被害者支援ボランティア養成講座・地域のつながりで始めるあなたのウェルビーイング・子どもがいる家庭への訪問支援講座・大人のひきこもりと発達障がいを考える講座など一見他分野に見える講座を受講されています。しかし受講してみると一般的に“社会課題”とされる物事は全て繋がりがあると認識したそうです。

「1講座終わると次はこの講座、と各講座でステップアップを図れるのもコミカレで学び続けたい理由のひとつ」とお話いただきました。

～グレーゾーンで生きる人々と一緒に～

「世の中には色々なグレーゾーンがあって、そのすき間で悩んでいる人がたくさんいます。グレーという理由で公的な援助が得られない。そもそもどこに、誰を頼れば良いのかわからない人もたくさんいます。そんな悲しい世の中はもう見たくない。その思いがかながわコミュニティカレッジ（以下、コミカレ）に来た最初の理由でした。」

「コミカレでは社会問題の渦中にいる人々をどうサポートするか、どう地域をより良くするか、解決の糸口を考える講座が多く提供されているんです。自身の住んでいる藤沢市をより住みやすい街にするため、そして自分自身が持っている色眼鏡をはずすため、コミカレに通いながら探求を続けています。」

～コミカレだからこそ～

「生涯学習や単発講座ではなく、コミカレで学ぶのは変化を起こしたいからなのです。」

～老いたとき

自分がどんな場所にいたいのか～

「仕事が忙しい。それに家族や友だち、趣味だってある。だから地域の人との交流は必要ない。そんな風に思っているといずれはどこかでリタイアし、余生を過ごすことになると思います。そうなった時どんな人と、どんな地域で生きたいでしょうか。」

「本当に気の許せる仲間、友だちって案外作るのが難しかったりする、特に大人になってからは。だからこそ活動を通じて信頼できる人間関係を築くことが自分自身にも必要なのでは、と思うのです。」

「近年では町内会離れも進み、様々な自治体で役員不足や町内のイベント縮小が取り沙汰されています。そんな変化する地域社会を目の当たりにし、異なる世代同士で歩み寄りができる地域にしていきたい。」

古くから決定権のあるいわゆる会長と名の付くポジションにいる人たちが決めたことを行うだけの街ではなく、住民一人ひとりが声をあげられるボトムアップの社会。そんな場所で生きていきたい。」とお話いただきました。



「いられない地域も多いのではないのでしょうか。自身の住んでいる藤沢の街の古き良き伝統や、つながりを守るには変化も必要だと思います。」

もし新しい街に引越して既に出来上がったコミュニティ、既存概念が強かったらそこに飛び込んでいくのはかなり勇気がいるものです。

「既存のコミュニティが新しい人に開かれていなければ、分断や分裂が起きてしまうのではないのでしょうか。だからこそ違う世代、人々をつなぐパイオニアが必要になってくるのです。」

石井さんはその一人として活躍すべく今まさに模索をしている最中です。大切な何かを守るために必要であれば改良、改善し変えてゆく。その思いがカタチに、そして繋がっていけばきっともっと多くの人が住みたい色溢れる街ができるように思われます。

令和5年12月15日取材

中里

(かながわコミュニティカレッジ事務局)

～守るために、変えてゆく～

「町内会の人材不足、地域活動の衰退を解決しなくてはいけない課題と認識しながらも、どこか古い体制を脱却せずに